



TITLE:

Parameter Estimation of a Linear Process (時系列における統計的推定論の研究)

AUTHOR(S):

柴田, 里程

CITATION:

柴田, 里程. Parameter Estimation of a Linear Process (時系列における統計的推定論の研究). 数理解析研究所講究録 1977, 312: 59-77

ISSUE DATE:

1977-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/103915>

RIGHT:

Parameter estimation of a linear process

東工大 理 柴田 里程

Time series analysis において、よく想定される母集団の process は AR, MA, ARMA process 等であるが、それほど構造のはっきりしていない場合には、もっと一般に one sided linear stationary process であるとして、話を進める必要がある [3], [4], [7].

ここでは、そのような process の無限個のパラメーターの推定、およびその推定されたパラメーターを使って予測を行なったときの予測誤差を問題にする。

§1 では best predictor の係数の最尤推定量は、実は、対応する order の AR を fit したときの Yule-Walker equation の解であることと示し、§2 ではその optimal な order を求め、§3 で efficient な selection method を与える。

§1. Prediction and parameter estimation

$\{x_t\}$ は平均 0 の one sided linear stationary Gaussian process;

$$x_t + a_1 x_{t-1} + \dots = e_t \quad (t = \dots, -1, 0, 1, \dots) \quad (1-1)$$

であるとする。ただし, e_t は $N(0, \sigma^2)$ に従う i.i.d. の associated polynomial $A(z) = 1 + a_1 z + \dots$ は $|z| \leq 1$ で finite, nonzero であるとする。correlation は $r_\ell = E(x_t x_{t+\ell})$, $k \times k$ covariance matrix は $R(k)$ で表わす。

さし, vector space $\{\alpha' = (\alpha_1, \alpha_2, \dots)\}$ に

$$\|\alpha\|_R^2 = \sum_{i,j=1}^{\infty} \alpha_i \alpha_j r_{|i-j|}$$

なる norm を導入し, この norm によるパラメータ $\alpha' = (\alpha_1, \alpha_2, \dots)$ の $(h+k-1)$ -dim. subspace

$$\{\alpha' = (0, \dots, 0, \alpha_h, \alpha_{h+1}, \dots, \alpha_{h+k-1}, 0, \dots, 0)\}$$

への projection は

$$\underline{a}'(h, k) = (0, \dots, 0, a_h(h, k), \dots, a_{h+k-1}(h, k), 0, \dots)$$

とすれば, よく知られているように, これは k step 前から観測値 x_{t-k+1}, \dots, x_t にもとづく h step 先の x_{t+h} の best predictor \hat{x}_{t+h} の係数を表わす vector になっている。すなわち

$$\hat{x}_{t+h} = E(x_{t+h} | x_{t-k+1}, \dots, x_t) = - \sum_{i=h}^{h+k-1} \underline{a}_i(h, k) x_{t+h-i}.$$

さて, n -samples x_1, \dots, x_n が与えられたときの $\underline{a}(h, k)$ の M.L.E. を求めよう。

Theorem 1.1

$\underline{a}(h, k)$ の一つの M.L.E. は次の equation

$$\sum_{j=h}^{h+k-1} \hat{r}_{|i-j|} \hat{a}_j(h, k) = -\hat{r}_i \quad (i=h, \dots, h+k-1) \quad (1-2)$$

の解

$$\hat{\underline{a}}(h, k)' = (0, \dots, 0, \hat{a}_h(h, k), \dots, \hat{a}_{h+k-1}(h, k), 0, \dots)$$

で与えられる。ただし, $h+k \leq n$, $\hat{r}_l = \frac{1}{n-l} \sum_{t=1}^{n-l} x_t x_{t+l}$.

Proof. $f(x_1, \dots, x_n, \theta)$ で x_1, \dots, x_n の同時密度を表わせば, r_0, r_1, \dots, r_{n-1} は \underline{a} と σ^2 の関数であるから

$$\begin{aligned} \max_{\underline{a}, \sigma^2} f(x_1, \dots, x_n, \underline{a}, \sigma^2) &\leq \max_{r_0, \dots, r_{n-1}} f(x_1, \dots, x_n, r_0, \dots, r_{n-1}) \\ &= f(x_1, \dots, x_n, \hat{r}_0, \dots, \hat{r}_{n-1}) \end{aligned}$$

そこで, $\{r_i\}_{i=0}^{\infty}$ と \underline{a} の関係

$$\sum_{j=1}^{\infty} r_{|i-j|} a_j = -r_i \quad (i=1, 2, \dots) \quad (1-3)$$

より, $r_l^* = \hat{r}_l$ ($l=0, 1, \dots, n-1$) であるような $\{r_i^*\}_{i=0}^{\infty}$ に対し (1-3) を満たし, $A(z)$ が $|z| \leq 1$ で finite, nonzero であるような \underline{a}^* が \underline{a} の一つの M.L.E. となる。しかしながら, $\underline{a}(h, k)$ の M.L.E. は \underline{a}^* の $\|\cdot\|_{R^*}$ による projection で与えられるから, 結局 (1-2) の解となる。』

ところで, theorem 1.1 の $\hat{a}(h, k)$ は, 実は, $(h+k-1)$ th order AR model

$$x_{t+h} + \alpha_1 x_{t+h-1} + \cdots + \alpha_{h+k-1} x_{t-k+1} = \varepsilon_t$$

(ただし, $\alpha_1 = \alpha_2 = \cdots = \alpha_{h-1} = 0$)

を fit させたいときの

$$\alpha' = (0, \dots, 0, \alpha_h, \dots, \alpha_{h+k-1}, 0, \dots)$$

の approximate M.L.E. (Yule-Walker equation (1-2) の解) に他ならない。したがって

「AR model を fit させたいときの Yule-Walker equation の解」

\Leftrightarrow 「対応する predictor の係数の M.L.E.」

であることがわかる。

さて, 話を簡単にするために, $\{x_t\}$ と同じ構造をもちこれと独立なもう一つの process $\{y_t\}$ を考え, 推定したパラメータ $\hat{a}(h, k)$ を使ってつくった predictor

$$\hat{y}_{t+h} = - \sum_{i=h}^{h+k-1} \hat{a}_i(h, k) y_{t+h-i}$$

の mean squared error を求めると

$$\begin{aligned} E^y (\hat{y}_{t+h} - y_{t+h})^2 &= \|\hat{a}(h, k) - a\|_R^2 + \sigma^2 \\ &= \|\hat{a}(h-k) - \underline{a}(h, k)\|_R^2 + \|\underline{a}(h, k) - a(h, \infty)\|_R^2 \\ &\quad + \|a(h, \infty) - a\|_R^2 + \sigma^2 \end{aligned} \quad (1-4)$$

となる。ただし, $\underline{a}(h, \infty)$ は $\{\alpha' = (0, \dots, 0, \alpha_h, \alpha_{h+1}, \dots)\}$ への \underline{a} の projection で $h=1$ なら $\underline{a}(h, \infty) = \underline{a}$. (1-4) は, また $\hat{x}_{n+h} - x_{n+h}$ の漸近分散とも漸近的には等しく, 第1項は推定量のバラツキ, 第2項は bias, 第3, 4項は予測のバラツキを表わしている。さらに, $\|\hat{\underline{a}}(h, k) - \underline{a}\|_R^2$ なる loss function は, h, k を fix したときの $\hat{\underline{a}}(h, k)$ の漸近分散行列 (= Fisher information matrix) で normalize した quadratic loss function でもある。

(1-4) の第1項は k を fix したとき $\frac{1}{n}$ の order で 0 に確率収束するが, そのとき第2項は $\{x_t\}$ が $n+k-1$ より低い order の AR でない限り残ってしまう。そこで, k を n に depend して決めていくことにより第1項, 第2項を balance させながら, 第1項+第2項を最小にもっていくことが必要になる。

§2. Efficiency of a selection method

$h=1$ の場合だけを考えれば, あとは同様であるので, 以後, この場合だけを考え簡単に $\underline{a}(k) = \underline{a}(1, k)$ と表わす。また, k の上限 $\bar{K}_n (< n)$ を与え, $1 \leq k \leq \bar{K}_n$ の範囲で考える。

Notations.

$$X_j(k)' = (x_j, x_{j-1}, \dots, x_{j-k+1})$$

$$\begin{aligned}\hat{R}(k) &= (\hat{r}_{\ell, m} \quad 1 \leq \ell, m \leq k) \\ &= \frac{1}{n} \sum_{j=\bar{K}_n}^{n-1} X_{j+1}(k) X'_{j+1}(k)\end{aligned}$$

$$\hat{r}(k)' = (\hat{r}_{0,1}, \hat{r}_{0,2}, \dots, \hat{r}_{0,k})$$

$$\hat{a}(k) = (\hat{a}_1(k), \hat{a}_2(k), \dots, \hat{a}_k(k), 0, \dots)$$

$$: \hat{R}(k) \hat{a}(k) = -\hat{r}(k) \text{ の解}$$

$$(\hat{a}(k) \text{ は } k\text{-dim. vector とみる})$$

$$e_{j+1,k} = x_{j+1} + a_1(k)x_j + \dots + a_k(k)x_{j+1-k}$$

$$s_k^2 = \frac{1}{n} \sum_{j=\bar{K}_n}^{n-1} e_{j+1,k}^2$$

$$\sigma_k^2 = E(e_{j+1,k}^2)$$

さらに, $\|\cdot\|$ は通常 Euclid norm を表わす.

Remark.

$\hat{a}(k)$ は §1 の $\hat{a}(1, k)$ とは厳密には違いがあるが, 漸近的には同等である. ここでは, $\hat{a}(k)$ を採用し, loss $\|\hat{a}(k) - a\|_R^2$ を問題にする.

Assumptions

$$(A-1) \quad \sum_{j=1}^{\infty} |a_j| < \infty$$

$$(A-2) \quad A(e^{i\lambda}) \neq 0 \quad \cdot (-\pi \leq \lambda \neq \pi)$$

$$(A-3) \quad \sum_{j=1}^{\infty} |r_j| < \infty$$

$$(A-4) \quad \bar{K}_n = o(\sqrt{n})$$

(A-5) $\{x_t\}$ は finite order の AR ではない。

Lemma 2.1

(A-1) ~ (A-3) の仮定のもとで, ある absolute constants $c_1, c_2 > 0$ が存在して $\bar{K}_n \geq \forall k \geq 1$ に対して

$$\begin{aligned} E \left(\frac{n}{k} \left\| \sum_{j=\bar{K}_n}^{n-1} X_j(k) e_{j+1} / n \right\|_{R(k)^{-1}}^2 - \sigma^2 \right)^2 \\ \leq \left(1 - \frac{\bar{K}_n}{n} \right) \frac{c_1}{n} + \left(1 - \frac{\bar{K}_n}{n} \right)^2 \frac{c_2}{k} \end{aligned}$$

Proof. Gaussian property を使って, $\{x_t\}$ の 8 次モーメントを評価すれば結果を得る。 \square

Lemma 2.2

(A-1) ~ (A-3) の仮定のもとで, ある absolute constant $c_3 > 0$ が存在して $\bar{K}_n \geq \forall k \geq 1$ に対して

$$\begin{aligned} E \left(\frac{n}{k} \left\| \sum_{j=\bar{K}_n}^{n-1} X_j(k) (e_{j+1,k} - e_{j+1}) / n \right\|^2 \right) \\ \leq c_3 \left(1 - \frac{\bar{K}_n}{n} \right) \|a - \underline{a}(k)\|^2 \end{aligned}$$

Proof. see [7]. \square

Lemma 2.3

(A-1), (A-2), (A-4) の仮定のもとで

$$p - \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\max_{k \leq \bar{K}_n} \|\hat{R}(k) - R(k)\| \right) = 0$$

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\max_{k \leq \bar{K}_n} \|\hat{R}(k)^{-1} - R(k)^{-1}\| \right) = 0$$

ただし, matrix A の norm は $\|A\| = \sup_{\|x\| \leq 1} \|Ax\|$ で定

義される。

$$\text{Proof. } \max_{k \leq \bar{K}_n} \|\hat{R}(k) - R(k)\| \leq \|\hat{R}(\bar{K}_n) - R(\bar{K}_n)\|$$

であることと, [3] より従う。

□

$$\hat{a}(k) - \underline{a}(k) = -\hat{R}(k)^{-1} \left(\sum_{j=\bar{K}_n}^{n-1} X_j(k) \underline{e}_{j+1,k} / n \right)$$

であるので, 上の三つの lemma と $\|R(k)^{-1}\|$ が bounded であることより, 次の proposition を得る。

Proposition 2.1

(A-1) ~ (A-4) の仮定のもとで, $1 \leq k_n \leq \bar{K}_n$ と

$\liminf_n k_n = \infty$ なる任意の positive integer の sequence

$\{k_n\}$ に対して

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{n}{k_n} \|\hat{a}(k_n) - \underline{a}(k_n)\|_R^2 - \sigma^2 \right| = 0.$$

したがって, $\|\hat{a}(k_n) - \underline{a}\|_R^2$ は漸近的に

$$L_n(k_n) = \frac{k_n}{n} \sigma^2 + \|\underline{a} - \underline{a}(k_n)\|_R^2$$

に等しくなる。

Definition 2.1

k_n^* は $L_n(k_n^*) = \min_{1 \leq k \leq K_n} L_n(k)$ なる positive integer.

(A-5) の仮定のもとで, $\{k_n^*\}$ は $n \rightarrow \infty$ として monotone increasing で $\lim_n k_n^* = \infty$ なる sequence となる。

Theorem 2.1

(A-1) ~ (A-5) の仮定のもとで, 任意の $1 \leq k_n \leq K_n$ に対して

$$p - \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\|\hat{a}(k_n) - a\|_R^2}{\|\hat{a}(k_n^*) - a\|_R^2} \geq 1 \quad (2-1)$$

Proof.

$$\frac{\|\hat{a}(k_n) - a\|_R^2}{\|\hat{a}(k_n^*) - a\|_R^2} = \frac{L_n(k_n^*)}{\|\hat{a}(k_n^*) - a\|_R^2} \cdot \frac{\|\hat{a}(k_n) - a\|_R^2}{L_n(k_n)} \cdot \frac{L_n(k_n)}{L_n(k_n^*)}$$

より, proposition 2.1 より

$$p - \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{L_n(k_n^*)}{\|\hat{a}(k_n^*) - a\|_R^2} = 1$$

また,

$$\begin{aligned} \frac{k}{(n L_n(k))^2} &\leq \frac{1}{n L_n(k) \sigma^2} \\ &\leq \frac{1}{n L_n(k_n^*) \sigma^2} \leq \frac{1}{k_n^* \sigma^4} \end{aligned}$$

であるから, lemma 2.1 ~ 2.3 より proposition 2.1 と同様にして

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\|\hat{a}(k_n) - a\|_R^2}{L_n(k_n)} = 1$$

』

この theorem より k_n^* が漸近的に最も optimal な order であることがわかる。しかし, これはパラメータに依存し, 一般には unknown。そこで何らかの integer valued statistic \tilde{k}_n で k_n^* を推定することを考えよう。

まず proposition 2.1 を拡張し, 次の proposition を得る。

Proposition 2.2

(A-1) ~ (A-5) の仮定のもとに, $1 \leq l_n \leq m_n \leq \bar{K}_n$, $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{m_n}{l_n} = 1$ なる任意の integer の sequences $\{l_n\}$, $\{m_n\}$ に対して

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\max_{l_n \leq k \leq m_n} \left| \frac{\|\hat{a}(k) - a\|_R^2}{L_n(k)} - 1 \right| \right) = 0.$$

Proof.

lemma 2.1 より

$$\begin{aligned} & \sum_{k=l_n}^{m_n} E \left(\frac{\frac{n}{k} \left\| \sum_{j=\bar{K}_n}^{n-1} X_j(k) e_{j+1} / n \right\|_{R(k)^{-1}}^2 - \sigma^2}{\frac{n}{k} L_n(k)} \right)^2 \\ & \leq c_1' \frac{\bar{K}_n^2}{n} + c_2' \sum_{k=l_n}^{m_n} \frac{k}{(n L_n(k))^2} \end{aligned}$$

また, lemma 2.2 より

$$\sum_{k=l_n}^{m_n} E \left(\frac{\left| \sqrt{\frac{n}{k}} \left\| \sum_{j=K_n}^{n-1} X_j(k) e_{j+1, k} / n \right\|_{R(k)^{-1}} - \sqrt{\frac{n}{k}} \left\| \sum_{j=K_n}^{n-1} X_j(k) e_{j+1} / n \right\|_{R(k)^{-1}} \right|^2}{\sqrt{\frac{n}{k} L_n(k)}} \right)^2$$

$$\leq c'_3 \frac{\bar{K}_n^2}{n}$$

したがって, $l'_n = \min(l_n, \log k_n^*)$, $m'_n = \min(m_n, \log k_n^*)$ とすれば

$$\sum_{k=l'_n}^{m'_n} \frac{k}{(n L_n(k))^2} \leq \text{const.} \frac{(\log k_n^*)^2}{k_n^{*2}},$$

$l''_n = \max(l_n, \log k_n^*)$, $m''_n = \max(m_n, \log k_n^*)$ とすれば

$$\sum_{k=l''_n}^{m''_n} \frac{k}{(n L_n(k))^2} \leq \text{const.} \sum_{k=l''_n}^{m''_n} \frac{1}{k}$$

よって, $\{l_n\}$, $\{m_n\}$ の条件より

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\max_{l_n \leq k \leq m_n} \left| \frac{\| \hat{a}(k) - \underline{a}(k) \|_{R(k)}^2 - \frac{k}{n} \sigma^2}{L_n(k)} \right| \right) = 0. \quad \square$$

Theorem 2.2

(A-1) ~ (A-5) の仮定のもとに, ある sequence $\{k_n\}$ ($1 \leq k_n \leq \bar{K}_n$) と positive constant α が存在して

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\tilde{k}_n}{k_n} = \alpha$$

であるような order selection $1 \leq \tilde{k}_n \leq \bar{K}_n$ について,
次の不等式が成り立つ。

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\|\hat{a}(\tilde{k}_n) - a\|_R^2}{\|\hat{a}(k_n^*) - a\|_R^2} \geq 1 \quad (2-2)$$

Proof.

proposition 2.2 より $p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\tilde{k}_n}{k_n} = \alpha$ の条件を使えば

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\|\hat{a}(\tilde{k}_n) - a\|_R^2}{\|\hat{a}(k_n^*) - a\|_R^2} = p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{L_n(\tilde{k}_n)}{L_n(k_n^*)}$$

で, k_n^* の定義より (2-2) が従う。 \square

そこで, (2-2) の左辺の極限が存在し, 等号が成り立つとき, \tilde{k} は efficient であるといふことにする。

§3. An efficient selection method

$S_n(k) = (n+2k) \hat{\sigma}_k^2$ なる statistic を考える。ただし

$$n \hat{\sigma}_k^2 = \sum_{j=\bar{K}_n}^{n-1} (x_{j+1} + \hat{a}_1(k)x_j + \cdots + \hat{a}_k(k)x_{j+1-k})^2.$$

すると $S_n(\hat{k}_n) = \min_{1 \leq k \leq \bar{K}_n} S_n(k)$ なる \hat{k}_n が一つの efficient selection method となる。これは赤池の FPE 法, AIC 法 [1], [6] や Mallows の C_p 法 [5] と同じような方法であるが, $\hat{\sigma}_k^2$ や $\hat{a}(k)$ の定義にいくぶんちがひがある。

$S_n(k)$ の behaviour はいくぶん critical で、今の段階では上の \hat{k}_n でない efficient であるとはいえない。

まず、 $S_n(k)$ を次のように書きかえる。

$$\begin{aligned} S_n(k) &= n(\hat{\sigma}_k^2 - \underline{s}_k^2) + n(\underline{s}_k^2 - \sigma_k^2) \\ &\quad + n(\sigma_k^2 - \sigma^2) + 2k\sigma^2 + 2k(\hat{\sigma}_k^2 - \sigma^2) \\ &= nL_n(k) - (n\|\hat{a}(k) - \underline{a}(k)\|_{\hat{R}(k)}^2 - k\sigma^2) \\ &\quad + 2k(\hat{\sigma}_k^2 - \sigma^2) + n(\underline{s}_k^2 - \sigma_k^2). \end{aligned}$$

Lemma 3.1

(A-1) ~ (A-5) の仮定のもとで、任意の sequence $\{k_n\}$ ($1 \leq k_n \leq \bar{K}_n$) に対し

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{n\|\hat{a}(k_n) - \underline{a}(k_n)\|_{\hat{R}(k_n)}^2 - k_n\sigma^2}{nL_n(k_n)} \right| = 0$$

Proof.

$$\begin{aligned} &\frac{n\|\hat{a}(k_n) - \underline{a}(k_n)\|_{\hat{R}(k_n)}^2 - k_n\sigma^2}{nL_n(k_n)} \\ &= \frac{\|\hat{a}(k_n) - \underline{a}(k_n)\|_{\hat{R}(k_n)}^2 + \|\underline{a}(k_n) - a\|_R^2}{L_n(k_n)} - 1 \end{aligned}$$

であるから、proposition 2.2 と lemma 2.3 より結果を得る。

Lemma 3.2

lemma 3.1 と同じ仮定のもとに

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{k_n |\hat{\sigma}_{k_n}^2 - \sigma^2|}{n L_n(k_n)} = 0$$

Proof.

$$\begin{aligned} |\hat{\sigma}_k^2 - \sigma^2| &\leq |\hat{\sigma}_k^2 - \underline{\sigma}_k^2| + |\underline{\sigma}_k^2 - \sigma_k^2| + |\sigma_k^2 - \sigma^2| \\ &= \|\hat{a}(k) - \underline{a}(k)\|_{\hat{R}(k)}^2 + |\underline{\sigma}_k^2 - \sigma_k^2| \\ &\quad + \|\underline{a}(k) - a\|_R^2 \end{aligned}$$

であることと, ある k に depend しな v constant $c(>0)$ が存在して

$$E(\underline{\sigma}_k^2 - \sigma_k^2)^2 \leq \frac{c}{n}$$

と評価されるから, lemma 3.1 より結果が従う。』

以上の lemma より

$$S_n(k_n) = n L_n(k_n) (1 + \delta_n) + n(\underline{\sigma}_{k_n}^2 - \sigma_{k_n}^2)$$

と表わされる。ただし, δ_n は $p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0$ なる r. v.

Lemma 3.3

lemma 3.1 と同じ仮定のもとに

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{n(\underline{\sigma}_{k_n}^{*2} - \sigma_{k_n}^{*2}) - n(\underline{\sigma}_{k_n}^2 - \sigma_{k_n}^2)}{n L_n(k_n)} \right| = 0$$

Proof.

$k_n^* < k$ のとき

$$\begin{aligned} n(\underline{S}_{k_n^*}^2 - \sigma_{k_n^*}^2) - n(\underline{S}_k^2 - \sigma_k^2) \\ = 2n(\underline{a}(k_n^*) - \underline{a}(k))'(\hat{r}(k_n) - r(k_n)) \\ + n(\|\underline{a}(k_n^*)\|_{\hat{R}(k)}^2 - \|\underline{a}(k_n^*)\|_R^2 + \|\underline{a}(k)\|_R^2 - \|\underline{a}(k)\|_{\hat{R}(k)}^2) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & E \left((n(\underline{a}(k_n^*) - \underline{a}(k)))'(\hat{r}(k) - r(k)) \right)^2 \\ & \leq \text{const.} \cdot n \|\underline{a}(k_n^*) - \underline{a}(k)\|_R^2, \end{aligned}$$

また,

$$\begin{aligned} & |n(\|\underline{a}(k_n^*)\|_{\hat{R}(k)}^2 - \|\underline{a}(k_n^*)\|_R^2 + \|\underline{a}(k)\|_R^2 - \|\underline{a}(k)\|_{\hat{R}(k)}^2)| \\ & \leq n \|\underline{a}(k_n^*) - \underline{a}(k)\|^2 \|\hat{R}(k) - R(k)\| \\ & \quad + 2n |(\underline{a}(k_n^*))'(\hat{R}(k) - R(k))(\underline{a}(k))| \end{aligned}$$

よって

$$\begin{aligned} & E(n(\underline{a}(k_n^*))'(\hat{R}(k) - R(k))(\underline{a}(k)))^2 \\ & \leq \text{const.} \cdot n \|\underline{a}(k_n^*) - \underline{a}(k)\|_R |\underline{a}(k) - \underline{a}(k_n^*)| \end{aligned}$$

と評価され、 $k_n^* > k$ のときも同様に評価になる。また

$$|\underline{a}(k) - \underline{a}(k_n^*)| = \sum_{i=1}^{\max(k, k_n^*)} |\underline{a}_i(k) - \underline{a}_i(k_n^*)|.$$

一方

$$\frac{n \|\underline{a}(k_n^*) - \underline{a}(k_n)\|_R |\underline{a}(k_n) - \underline{a}(k_n^*)|}{(n L_n(k_n))^2}$$

$$\begin{aligned} &\leq \frac{\|a(k_n^*) - a(k_n)\|_R^2}{L_n(k_n)} \frac{\sqrt{\max(k_n^*, k_n)}}{n L_n(k_n)} \\ &\leq \left| \frac{L_n(k_n) - L_n(k_n^*) + \frac{\sigma^2}{n} (k_n^* - k_n)}{L_n(k_n)} \right| \frac{\sqrt{\max(k_n^*, k_n)}}{n L_n(k_n)} \end{aligned}$$

ここで, k_n^* の定義より

$$\frac{\sqrt{\max(k_n^*, k_n)}}{n L_n(k_n)} \rightarrow 0$$

であるから, 結果が従う。 \square

以上の結果より, 次の proposition を得る。

Proposition 3.1

lemma 3.1 と同じ仮定のもとに

$$S(k_n^*) - S(k_n) = n L_n(k_n^*) (1 + \delta_n) - n L_n(k_n) (1 + \delta_n')$$

と表わされる。ただし, δ_n, δ_n' は

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n = 0, \quad p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \delta_n' = 0$$

なる r. v.

ここで, 任意の $\varepsilon > 0$ に対し

$$\frac{L_n(k)}{L_n(k_n^*)} \leq 1 + \varepsilon$$

なる最小の k を $\underline{k}_n^*(\varepsilon)$, 最大の k を $\bar{k}_n^*(\varepsilon)$ とする。

Theorem 3.1

(A-1) ~ (A-5) の仮定のもとに, 任意の $\varepsilon > 0$ に対して

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \Pr(\underline{k}_n^*(\varepsilon) \leq \hat{k}_n \leq \bar{k}_n^*(\varepsilon)) = 1$$

である。

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{L_n(\hat{k}_n)}{L_n(k_n^*)} = 1.$$

Proof.

$\hat{k}_n > \bar{k}_n^*(\varepsilon)$ または $\hat{k}_n < \underline{k}_n^*(\varepsilon)$ ならば, $S_n(k)$ の convexity より

$$S_n(k_n^*) \geq S_n(\bar{k}_n^*(\varepsilon) + 1), \quad S_n(\underline{k}_n^*(\varepsilon) - 1)$$

である, proposition 3.1 より

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{L_n(\underline{k}_n^*(\varepsilon) - 1)}{L_n(k_n^*)} = 0,$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{L_n(\bar{k}_n^*(\varepsilon) + 1)}{L_n(k_n^*)} = 0.$$

これは, $\bar{k}_n^*(\varepsilon)$, $\underline{k}_n^*(\varepsilon)$ の定義に矛盾する。

また, $\underline{k}_n^*(\varepsilon) \leq \hat{k}_n \leq \bar{k}_n^*(\varepsilon)$ ならば

$$\frac{L_n(\hat{k}_n)}{L_n(k_n^*)} \leq 1 + \varepsilon$$

であるから

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \Pr\left(1 \leq \frac{L_n(\hat{k}_n)}{L_n(k_n^*)} \leq 1 + \varepsilon\right) = 1.$$

□

Theorem 3.2 (\hat{k} の asymptotic efficiency)

(A-1) ~ (A-5) の仮定, および

$$\lim_{\varepsilon \rightarrow 0} \left(\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\bar{k}_n^*(\varepsilon)}{\underline{k}_n^*(\varepsilon)} \right) = 1 \quad (3-1)$$

が成り立つば

$$p\text{-}\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\|\hat{a}(\hat{k}_n) - a\|_R^2}{\|\hat{a}(k_n^*) - a\|_R^2} = 1.$$

Proof.

theorem 3.1 の結果, および proposition 2.2 より従う。 \square

Example

$\{a_i\}$ が exponentially decreasing sequence ならば,

$$\|\underline{a}(k) - a\|_R^2$$

も同様であり, k_n^* は $\log n$ の order k なる。このとき (3-1) が成り立つ。

References

1. Akaike, H. (1969). Fitting autoregressive models for prediction. Ann. Inst. Statist. Math. 21, 243-247.
2. Akaike, H. (1970). Statistical predictor identification. Ann. Inst. Statist. Math. 22, 203-217.
3. Berk, K. N. (1974). Consistent autoregressive spectral estimates. Ann. Statist. Vol. 2, No. 3, 489-502.
4. Huzii, M. (1976). On a spectral estimate obtained by an autoregressive model fitting. Tech. Rep. Dep. of Statist. Stanford Univ. No. 22.
5. Mallows, C. L. (1973). Some comments on Cp. Technometrics 12, 591-612.
6. Shibata, R. (1976). Selection of the order of an autoregressive model by Akaike's information criterion. Biometrika 63, 117-126.
7. Shibata, R. (1978). Convergence of least square estimates of autoregressive parameters. to be published in the Australian Journal of Statistics, Vol. 20, No. 1.